



**八千代市郷土歴史研究会**  
会長 村田一男

事務局 八千代市勝田台 3-24-10 牧野方

\*\*\*\*\* お知らせ \*\*\*\*\*

**平成 20 年度定期総会と  
市長懇談会のお知らせ**

**4 月 6 日 (日) 八千代市立郷土博物館にて**  
**(1) 定期総会 13:30~14:30**

会員の皆様には、このお知らせをもって総会開催通知といたします。

ご欠席の方は委任状を、事務局までお送りください。

**(2) 市長との懇談会 (予定) 15:00~16:00**

おかげさまで当研究会は八千代市の社会教育団体として昭和 48 年に発足以来、35 年目の総会を迎えることとなりました。

これを記念して当会のさらなる歴史文化に関する研究活動が発展し、市民文化成長の一助となれますことを願って、八千代市長・豊田俊郎様においでいただき、お話と懇談の機会をもちたいと思います。

- ・「八千代市の文化行政の現状」 30 分
- ・続いて懇談会 30 分の予定



19 年度ふるさと歴史展にご来場の豊田市長

**2 月 17 日 (日) 博物館共催事業**  
**開設 20 周年記念**  
**再発見八千代・八福神めぐり**

1989(平成元)年 11 月に八千代市仏教連合会と八千代市郷土歴史研究会が設置した「八千代八福神」20 周年を記念し、会員が八福神設置寺院の歴史・文化財を解説しながら、博物館で公募した市民とバスで八福神めぐりを行います。

行事の主旨：人々は昔から日々の幸せを願って神仏に加護を求め、生業を重ねてきたことに思いを馳せて八福神を巡り、併せて諸寺院の石造物等の文化財を鑑賞し、信仰文化をとおして郷土の歴史を学ぶ機会とする。

巡拝寺院と解説担当の会員

- ①「正覚院 (村田) ②萱田長福寺 (佐久間)
- ③米本長福寺 (森山) ④保品東栄寺 (藤)
- 道の駅で昼食- ⑤真木野妙徳寺 (酒井)
- ⑥小池妙光寺 (酒井) ⑦吉橋貞福寺 (園田)
- ⑧高津観音寺 (牧野)

**3 月 16 日 (日) 例会**

**旧平戸村のフィールドワーク 1**

**集合：緑が丘駅 12:30**

12:40 発のバスに乗車し、平戸へ  
(次年度調査対象の旧平戸村。ムラを歩くことから始め、研究課題を決めましょう。)

**5 月 18 日 (日) 例会**

**旧平戸村のフィールドワーク 2**

**6 月 7 日 (土) ~ 8 日 (日)**

恒例の見学旅行・福島会津方面を予定。

☆ 5 月・6 月行事の詳細は総会でお知らせします。

八千代市民文化祭 ふるさとの歴史展

- ・延べ 207 名の参加で盛況に終了しました。
- 11 月 24 日 (土) 午後 お客様 67 名 会員 31 名
- 25 日 (日) 全日 お客様 80 名 会員 29 名

展示内容

- テーマ「旧村のいま・大和田新田のすがたⅡ」  
ー忘れられたモノ、遠ざかるすがたー
- ◇旧家「白井家」に残る古文書から歴史を読み解く
    - ・大和田新田善兵衛組の人々の変遷 (菅野)
    - ・大和田新田善兵衛組への入り作について (菅野)
    - ・大和田新田石亀沢用水溜池に係わる争い (酒井)
    - ・土地払下げと奉公人請状 (羽計・畠山)
    - ・『時価時価一筆限帳』の解説 (平塚)
  - ◇埋蔵文化財調査に見る大和田新田
    - ー掘り出された原始・古代の姿ー (蔵)
  - ◇ようこそ！！大和田新田へ 開発による変遷 (佐藤二郎)
  - ◇大和田新田の石塔調査と民俗行事から
    - ー旧村の伝統と新しいマチの姿ー (蔵)
  - ◇大和田新田村域外の石造物にみる村人の足跡 (園田・小菅・鈴木)
  - ◇阿弥陀堂があった (畠山・斉藤君代)
  - ◇大和田新田の酪農 (佐久間・石井・斉藤正一)
  - ◇大和田新田のわらべうた (小林)
  - ◇八千代市郷土歴史研究会の紹介 (蔵・藤本早苗・中島・浄園・羽計)



『史談八千代』32号を発売しました  
1冊 500円で発売中！

12月例会

「大和田新田の塚めぐり」に参加して

田中 巖

12月例会は16日(日)、フィールドワーク「大和田新田の塚めぐり」が行われ、終了後忘年会を実施して年の最後を締めくくりました。古文書解読作業などにも出ておらず、例会出席率も良くない私が、このフィールドワーク報告を引き受けることになりましたので、少しの間、お付き合いください。

12時30分八千代台駅に集合して、路線バスで高津の中央消防署に行き、まず、消防フェスティバルを見学しました。消防新庁舎が11月に完成して消防本部と中央消防署が入居し、この日市民へのお披露目が行われていたものです。119番受付センターなどの庁舎内見学もしたあと、これから私たちが見て歩く「塚」のある方向も高いところから眺めることが出来ました。

そのあとフィールドワークに出かけましたが、見学場所を列記すると、①中央消防署建設用地から出土した納経壺と奉納記念銘刻書石(これは資料での説明のみ)、②消防署前の庚申様と石井勝己家の氏神様、③消防署敷地内の仙元塚、④ヨエモン家(中村隆家)の塚、⑤ジンベエ家(鈴木薫明家)の氏神様を祀る塚、⑥正福寺跡などでした。以下、順に見学地について簡単に説明します。

まず、①の納経壺と奉納記念銘を刻した石は、消防庁舎の敷地に、旧庁舎が建設される時に削平された経塚から、昭和30年代に出土したもので、今は観音寺に寄託されているとのこと。石には「宝永3年(1706)に、導師潮鯨和尚のもと願主是念が大乗妙典六十六部を成就したので、供養のために奉納した」と石の両面に刻書されているということでした。壺は江戸時代の常滑焼。フィールドワーク当日は村田会長から写真により、以上のような説明だけで、現物を目にすることは出来ませんでした。経塚があったらしい敷地に立っての説明は臨場感にあふれるものでした。

次に、②の庚申様は庁舎左隅にあって、旧高津村と大和田新田の境に当たる所。高津側に居住する石井家の氏神様と同居する形で祀られています。二基ある内の古い方の庚申塔は延宝2年(1674)のもの。庚申塔は、邪気が入り込まないよう村はずれに設置された様子がよくわかりました。

つぎの③の仙元塚は消防署敷地内に、削平されずに小島のような形で取り残され、鬱蒼と樹木やツタで覆われていました。4メートルほどの頂上には階段で登ることが出来、仙元宮(嘉永7年(1854))と足尾大権現(万延元年 1860)の塚があります。近隣の居住者の話では、仙元宮は稲毛の浅間神社から分祀したもので、毎年浅間神社の例祭(7月15日)に合せ14日に祭礼していたとのこと。



その次の、④ヨエモン家の塚は消防署から畑越しに良く見えていましたが、所在地は中央消防署から成田街道へ出て、左に、20メートルほどの所です。屋敷に隣接して、畑の中に竹林と樹木に覆われ、中村家の墓地も併設された百坪くらいもある土地に、4~5メートルほどの高さの塚があります。形は方形で、頂上には樹齢300年を超える様なケヤキの大木が逆立ちをして両足を伸ばしたような双幹が壮観です。先祖を祀るお墓とともに、氏神様を祀っているとのこと。数百年間、聖地として屋敷地の一部として守られてきたという経済的余裕と、歴史の重みを感じました。

そして、つぎの④は、興真牛乳前を通過し、途中小柴宣雄の墓碑を越えて、ジンベエ家(鈴木薫明家)手前左側にあります。新しい都市計画道路が成田街道を横切って高津から工業団地へ抜けたため、屋敷とは新道で隔てられていますが、塚は300坪を超えるほどの竹林の中であって、高さは4メートルほどあります。その麓にジンベエ家の氏神様と馬頭観音を祀っています。氏神様の石塔は享和元年(1801)の建立。頂上には先代が建てたという新しい石祠があります。今でもお盆には氏神様にお参りしてから、お墓へお参りに行くとのこと。ここでも、数百年の重みと、「ゆとり」を感じさせられました。

このたび、消えた経塚を含めて四ヶ所の塚(そのいずれもが西に向いて石塔がたてられている)を巡ることが出来、大和田新田の歴史、八千代市の歴史の一端にふれることが出来ました。それにしても、300~400年前になぜこのような「塚」が個人の屋敷(③の仙元塚は屋敷内ではなかったかも知れませんが)に作られたのでしょうか。

古墳時代のものであれば、先祖の墓ですが、もっと新しい時代のもと考えられますので、経塚か富士山信仰に伴う富士塚と考えて良いのではないかと感じました。

経塚は平安、鎌倉時代に流行し、経典を書写した紙、瓦、貝殻などが埋納されました。経塚は山頂や神社境内だけでなく、中世以降は死者の追善供養の意味も加わって、墓所、路傍や屋敷近くにも作られたようです。大和田新田の「塚」はこうした経塚だった可能性が第一に考えられます。

一方、昔からの富士山信仰が広がって、江戸時代にさかんにつくられた富士塚とも考えられます。9世紀には下総でも稲毛浅間神社が祀られます。中世には源頼朝、千葉常胤以来代々の千葉氏の信仰もあつく、文治3年(1187)の社殿再建に際して、境内に富士山の形に盛土し、参道も富士登山道にならって三方に設けるなど、ミニ富士山が作られたようです。関東各地の浅間神社でも有力者の信仰をあつめ稲毛同様の動きがあった様です。

特に江戸時代後期には、富士講を作って富士山参りが庶民の間に流行しました。しかし、いつでも自由に参詣に行くわけにはいかず、豪農が個人であるいは集落で富士塚をつくって浅間神社を勧請したり、五穀豊穰と子孫繁栄を願って氏神様を祀ったりしたもようです。

また武士の間でも、小田原北条氏が秀吉に破れ、家臣が小田原を離れて各地に散り、定住した関東各地で富士山の見えた小田原を偲んで、居住地に富士塚をつくったとも言われます。駿河から関東への国替で、関八州に散った徳川の家臣にも同じような郷愁に基づく動きがあったのではないとも言われます。

これらいくつかの要因で富士塚が、関東各地に数多く造られました。ある調査では、東京都内の富士塚、藤塚、浅間塚、仙元塚などと称される塚は、現存または確認されているものだけで120箇所にのぼると言われます。千葉県内や八千代市内の塚もこ

うした動きと無縁であるはずがありません。

予定した「塚めぐり」が終わって、高津の「大門前」バス停でバスを待つ時間に、忘年会開始までの時間調整もかねて、⑥の正福寺廃寺跡を見学しました。明治10年に住職が不在となって廃寺となったといわれ、今は竹林となって荒れ果て、石碑も埋もれていました。「大門」という地名が今も残り、掘割とか土塁と見られる地形もあり、廃寺あるいは陣屋跡とも思われるたたずまいを見ることが出来たのは、「塚めぐり」のおまけのようで、得をした気分になりました。

以上、今回の「大和田新田の塚めぐり」を通して、郷土の歴史認識は足で歩くことから始まるのだということを体感でき、たいへん勉強になりました。有難うございました。なお、この報告を書きながら、この研究会の2007年6月の甲府旅行で見てきた「塚」を思い出しました。それは、織田信長の代官河尻氏の悪政に立ち向った地元民が、代官を生埋めにした跡と言われる「河尻塚」です。今回の大和田新田の塚とは随分違うイメージだったことを思い出しました。

## 2008年 新春恒例行事

### 「浅草名所 七福神もうで」

藤本 早苗

平成20年1月6日の穏やかな日曜、初詣に賑わう雷門前に12時30分に集合。参加者41名。当日のあまりの混みように予定していた行程ではなく、急遽、逆コースでまわる事になりました。案内役は、小菅さんと鈴木さん。両者の機転の利いた判断により、スムーズに七福神めぐりが出来ました。

八千代は八福神と珍しいですが、浅草七福神はなんと九社を廻るといふ、これまた珍しい七福神でした。九は数のきわみ、一は変じて七、七変じて九となす、九は鳩でありあつまる意味をもち、また天地の至数、易では陽を表す、と言う古事に由来するとのこと、八千代と何か近いものを感じました。

まず、矢先稲荷神社(福祿寿)に着き、拝殿に入ると格天井に和紙に描かれた神武天皇の御世から今日までの日本の馬乗史を書いた絵が100枚キレイに飾ってありました。この矢先稲荷神社は、1642年に徳川家光の命で建立された、歴史ある神社です。

次の驚神社(寿老人)は「酉の市発祥の神社」とされ、酉の市の時には商売繁盛の熊手を求める人で賑わいますが、初詣の時はとても静かでした。

大通りから細い路地に入り、吉原神社(弁財天)に行きました。新吉原遊郭に散在する稲荷社と弁財社を明治初めに合祀しました。少し歩くと、交差点にポツンと見返り柳があり、細い横道を前の人の背中を追いかけながら東禅寺へ行き、江戸六地藏の二番目である銅造地藏菩薩坐に手を合わせました。そして春慶院へ行き、ひっそりと建つ2代目高尾太夫の墓をお参りし、境内の派手なペットの墓には驚きました。

次に寄った妙亀塚と石浜神社(寿老人)は、能の隅田川に出てくる梅若伝説に関係する場所があり、改めて梅若丸の本を広げ、木母寺に旧跡梅若塚を訪ねてみたいと思いました。橋場不動院(布袋尊)境内には大きな銀杏の木、隅田川往来の目印と書いてありました。

夕方になり気温もだいぶ下がり、招き猫の発祥の地とされています今戸神社(福祿寿)へ。沖田総司が松本良順の治療の甲斐なく当地で亡くなったと伝えられています。16時10分、山の上の待乳山聖天(毘沙門天)でミーティングをした後、雷門で解散。その後個々で、5月三社祭で賑わう浅草神社(恵比寿神)へお参りをしました。最後に、浅草神社隣の浅草寺(大黒天)へ。

今回四時間の浅草七福神めぐり。皆様のお陰で、迷子にならず、何事もなく浅草七福神めぐりを終える事が出来、今年も良いスタートを切ることが出来ました。よい年になりそうです。

小菅さん、鈴木さん、わかりやすい資料・案内ありがとうございました。

「八千代市郷土歴史研究会の皆様がこの一年が素晴らしい年になりますように」そう祈りながら、浅草七福神めぐりの報告を終わらせていただきます。



## 勝田圓福寺に寺子屋が・・・？

佐久間 弘文

美しい形体の宝篋印塔、しかも県内唯一ともいう、「陀羅尼」が「漢字」で刻まれている宝篋印塔(通信 58 号参照)が注目された勝田「圓福寺」は、その他にも江戸時代後期に「大般若経」600 巻が寄進され、現在も保存されている真言宗のお寺です。このほど、板倉会員と圓福寺を再調査した結果を報告します。

①宝篋印塔の左に建つ、高さ5メートルにも達する納経塔があります。

正面は「大般若経全部護摩佛具永代之修」と明確ですが、左面上部の銘文は長い脚立を準備してやっと読むことができました。



「奉備逆修法號者無上覺果小因 大果家内最榮之基本也依之孝 孚等任意願院居士令授与者也」

納経塔建立のいわれを含めて、さらに詳細な調査を加えたいと思っています。

②馬頭観音堂の右に並ぶ歴代住職の墓1基に、和歌一首が刻まれています。

「志為柴越 かり能浮世に 迷い来て 今古楚帰る 阿字乃古郷」宥静

この人物の詳細は不明のままです。

和歌は「椎柴(銚子市椎柴村)を 仮の浮世に迷い来て 今こそ帰る 阿字(万物の根源)の古郷」とでも読むのでしょうか。

③圓福寺は寺子屋だったか？

市博物館の佐藤主査が同寺を調査したとき、捨てられる寸前にあった反故の一束を檀家総代の許可を得て博物館に保存していました。主査の好意を得て拝見したところ、その中に師匠が受け取った筆子からの月謝と思われる文書が混じっていました。その中に、「白米貳升 丈助」などの記載があります。江戸期において、筆子の月謝は正月元旦・端午・歳暮の3回、米の2升枡を師匠の許に持参して礼を述べる、という習慣があったのですが、その一例かも知れません。圓福寺が手習いの子どもたちを預かっていた、とも考えられます。

同資料につき、今後の調査研究が待たれます。

## 静御前の銅像が建ちました

牧野光男



静御前にかかる「思案橋」の伝説について「郷土史研通信」第38号(平成14年)に拙稿を書きましたが、久しぶりにここ思案橋を通ったら静御前の銅像が建っていた。

その所は境町から国道354号を古河方面に思案橋をわたった右側の一角がスポット公園になっており、その中央の奥に銅像が建っている。

1.4m くらいの台座の上に立つ等身大の銅像で、市女笠に手をやり右手に杖を持つ旅姿で遠く南の方を眺めている。

台座の正面には「思案橋の伝説を刻した盤が嵌め込んである。銅像の右側に近づくとき哀調帯びた歌が流れる仕掛けになっている。その唄は「静桜伝説」と題して歌詞が書いてある。

「1 散る花哀し筑波路の 思いの川に架かる橋行こうか戻るか面影揺れる ここは思案の涙橋」「2 峰の白雪踏み分けて 入りにし人は今何処 思いの丈は笛で奏でりゃ 冬の枯野に百舌鳥が啼く」・・・と3番まで歌詞が書いてあり、「制作 リバーシティ・ケーブルテレビ株式会社」とある。

誰が建てたものかと台座の裏を見ると、「トモエ乳業株式会社五十周年記念 平成19年4月吉日 社長中田俊夫 中田浜恵 県知事 橋本昌書」と刻してある。

トモエ乳業はここから古河寄りにある会社で、前庭に乳牛の像を飾ってある会社である。

ここには牛乳博物館があり、見学した折に中田社長はケーブルテレビの社長も兼ねていることを聞いていたのを思い出した。

その折静御前の銅像を立てるという話もあったが、聞き流していた。

冬晴れの空の下でこの歌を聴くと国道の喧騒も消えてしまいそうである。

(H19・12 記)

**東葉高速沿線の旧石器はどこから？**  
**源七山遺跡にみる黒曜石産地同定の最新情報**  
**藤 由美**

八千代市内の大和田新田と萱田地区の遺跡は、東葉高速鉄道に伴う開発により大規模な発掘、特に旧石器の地層まで調査が行われ、その成果は県内外からも注目されました。

その後、坪井川を挟んで大和田新田と隣接する船橋市源七山遺跡でも平成 9 年から調査が実施され、平成 18 年に報告書が刊行されましたが、1 月 27 日の千葉県遺跡調査研究発表会では、新田浩三氏（千葉県教育振興財団）から、石材産地同定などその後の新しい知見も含め興味深い報告がありました。

源七山遺跡は、船橋日大前駅をはさむ坪井川の源流域左岸の台地の上にあり、旧石器時代全般にわたって 6 つの文化層の石器群が出土、石器出土総数 1,469 点、石器集中地点が 29 か所検出されています。

このうち、第 2 文化層は透明度が高い信州産黒曜石のナイフ形石器を主体とし、第 3 文化層（約 2 万年前）は東北産硬質頁岩の大型ナイフ形石器と栃木県高原山産・信州産の黒曜石、第 4 文化層（約 2 万 2 千年前）は漆黒黒曜石のナイフ形石器・角錐状石器を主体としています。

これらの石材は最近、機器分析による産地同定が可能になり、報告書刊行以後の測定結果では、高原山産と推定されていた第 4 文化層の黒曜石が、箱根・天城産であると判明しました。今回の調査遺跡発表会で、報告書の推定地と異なる新知見が正式に報告されましたが、高原山産と報告されている八千代市萱田遺跡群の第 4 文化層黒曜石も、同様に箱根・天城産とのことです。

縄文時代以降に比べ、総じて寒冷な気候だった旧石器時代もその間、大きな寒暖の差があったことが、グリーンランド氷床コアの酸素同位体比による汎地球的な気候変動のグラフでわかるそうですが、新田氏の報告は、旧石器の 6 つの文化層の特徴をこの気候変動に対応して考察しています。

すなわち比較的温暖であった第 1・第 4～6 文化層に対し、第 2 文化層では気温低下、さらに第 3 文化層の頃はより寒冷化が強まります。北総西部の遺跡の石器もそれに対応し、第 2 文化層では寒冷化とともに和田峠など信州から荒川沿いにもたらされていた黒曜石などの石材は、さらに第 4 文化層のころ一層寒気が強まると、下野ー北総回廊を通じ、東北

産硬質頁岩と高原山産黒曜石などの北からの南下が顕著となります。そして第 4 文化層以後、温暖化とともに、南西の箱根から黒曜石がもたらされます。

石器は人々の活動・移動を反映しています。はるか 2～3 万年前の千年単位の遺跡の様相も、私たち祖先の旅の歴史を教えてくれる手がかりとして、貴重な資料であることが実感できました。

この源七山遺跡の遺物などは、八千代市立郷土博物館でもすでに開催され、現在 3 月 2 日まで千葉県中央博物館で巡回展示中の「房総発掘ものがたり」でご覧になれます。ちなみに八千代市と船橋市の境の桑納川川底の遺跡群から見つかった縄文時代後晚期と古代の土器も展示されています。

＝ 短 信 ＝

☆2 月 24 日の吉橋貞福寺での雑煮会は、ご住職ご逝去により中止になりました。ご冥福をお祈りします。

☆白井家文書解読研究日程（詳細は会長まで）  
2/21(木)・27(水)、3/6(木)・12(水)・26(水)  
10:00～16:00、八千代市立郷土博物館にて

☆2 月 23 日（土）郷土史研究フォーラム  
主催：千葉県郷土史研究連絡協議会  
会場：Qiball 15 階第 4 会議室 千葉中央駅徒歩 5 分  
時間：13:00～基調講演（三浦茂一先生）  
14:10～フォーラム（各郷土史研究団体）  
参加費：500 円 本会も会長・副会長が参加します

☆3 月 15 日（土）房総古代学研究会公開講演会  
演題：『古代武社国の古墳について』（仮題）  
講師：杉山晋作先生（国立歴史民俗博物館教授）  
時間：14:00～16:00  
会場：千葉大学（西千葉）文・法学部棟 101 教室

☆新入会員のご紹介（敬称略）  
大矢勝男（米本） 神永祐枝（勝田台二丁目）  
山本琢三（高津） 吉野静生（八千代台北）

＝ 編集後記 ＝

59・60 号の編集は、畠山会員に交代していただき、久々の編集作業。Windows Vista 搭載の新 PC にもやっとなじんできました。編集者大募集中、皆様もいかがですか

By 藤 sawarabi-y@nifty.com